

# 十和田市事務事業評価シート

担当課名	生涯学習課
------	-------

【事務事業の種類と位置づけ】

市総合計画 実施計画番号	51	整理番号	41
基本目標	豊かな心をはぐくむ「こころ感動・創造都市」		
施策の展開方向	文化の振興		
事務事業名	芸術文化鑑賞機会の提供		
事務の種類	自治事務	根拠法令等	
関連する事務事業			

【人件費の推移(概算)】

		21年度実績	22年度実績	23年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	50	50	50
	人件費(千円)	1,800	1,800	1,800
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

事業費合計(千円)	21年度実績	22年度実績	23年度計画
	462	495	541
うち一般財源	328	388	421
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他	134	107	120

【事務事業の概要】

対象 (誰(何)を対象として行うのか)	十和田市民
意図 (対象をどういう状態にしたいか)	文化芸術鑑賞機会を提供することにより、市民の心豊かな生活の実現をめざす。
手段 (どのようなやり方で行うのか)	市民合唱祭、こども劇団公演、ジュニアオーケストラ十和田公演など優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する。

【指標】

活動指標 (活動の規模)	活動指標名	自主事業実施回数			
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
		回	5	5	5
	活動指標名				
	計算式等	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画
成果指標 (意図をどの程度達成しているか)	成果指標名	自主事業鑑賞者数			
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		人	目標値 2,824	2,650	3,000
			実績値 2,374	2,499	
			達成度(%) 84%	94%	
	成果指標名				
	計算式等	単位	21年度	22年度	23年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	41
計画No	51

【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由		
<b>妥当性</b>	<b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地   0 / 4		
	<b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		活動支援については、市民団体単体では発表の機会を設けることは困難であることから、妥当性は高いものと思われる。		
<b>有効性</b>	<b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地   1 / 6		
	<b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		自主事業は、来場者の多くが出演者の関係者であり、一般の市民への周知が図られていない面があることから、広報活動等については見直しの余地がある。		
	<b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1				
<b>効率性</b>	<b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2	6	コスト削減の余地   0 / 6		
	<b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済	A	2		全国的に活躍しているアーティストによるコンサートや劇団等による公演については、指定管理者が実施している。また、自主事業については事業の精査を行い、類似事業等は廃止しており、効率性は高いものと思われる。		
	<b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である 実施済		2				
<b>公平性</b>	<b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地   0 / 4		
	<b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		文化芸術鑑賞機会の提供という観点からは公平性は保たれている。		
<b>現在の適性</b>					19 / 20	<b>改善の余地</b>		1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の平成24年度の方向性

**現状のまま継続**

方向性の理由

ジュニアオーケストラ十和田定期演奏会、十和田子ども劇団公演、市民合唱祭、ゼルコバアンサンブルコンサートは、第2次生涯学習推進計画の中で取り組んでいる「文化芸術鑑賞機会の提供」「文化芸術発表の場の提供」の一環であり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。

今後の具体的な取組み方策と狙う効果

現在実施している事業は継続し、さらに国、県、各団体の補助等を活用し、市民に文化芸術鑑賞機会の提供をしていきたい。